

事業費に10億円以上の増減が生じた地区（既再評価実施地区を除く）

（細目様式1）

（平成30年度公共事業再評価実施細目に基づく報告）

（平成30年7月20日時点）

上段：旧事業計画

下段：新事業計画

所管部 事業名 地区名	事業概要	事業費（百万円）			事業期間			再評価		変更理由及び増減額の内訳	変更事業の発生と対応経過	備考
		総事業費	増減額	うち道費 負担額	事業 着手	建設 着手	完了 予定	実施 年	実施 予定			
農政部 農地整備 事業(中山 間地域 型) 大谷地区	○受益面積 267ha ○受益戸数 42戸 ・区画整理 114ha ・用排水路 5,480m ・暗渠排水 39ha ・客土 36ha	1,430		429 (30%)	24	25	31			<ul style="list-style-type: none"> 後継者への経営移譲等による営農方針の見直しが見直しがされ、区画整理の整備要望があった。（401百万円増） 施工中に確認された湧水やレキ、不良土への対応が必要となった。（300百万円増） 客土土取場から想定以上のレキが出現し、土取場の変更が必要となった。（400百万円増） 物価上昇や消費税率の改訂による。（289百万円増） 	H25年～H29年：受益者との打合せによる ・区画整理工の新規増34ha ・暗渠排水、客土から区画整理への工種移行54ha H29年施工中： ・区画整理の施工中に湧水が確認され、水抜対策が必要となった。 ・畦畔等の盛土に使用する予定であったほ場内の土が泥炭だったため、盛土材として使用できないことから、ほ場外から土の搬入が必要となった。 ・暗渠排水の施工中にレキが確認され、ほ場外への搬出が必要となった。 H28年：レキ多出により客土材の採取可能量の検討 H29年5月：新たな土取場のボーリング調査等 H25年：消費税率の改定（5%→8%） H25年～H29年：物価上昇による自然増	資料①
	○受益面積 298ha ○受益戸数 44戸 ・区画整理 192ha ・用排水路 5,353m ・暗渠排水 30ha ・客土 5ha	2,820	1,390 (97%)	917 (32.5%)	24	25	33					資料② 資料③ 資料④ 資料⑤

事業費に10億円以上の増減が生じた地区（既再評価実施地区を除く）

（細目様式1）

（平成30年度公共事業再評価実施細目に基づく報告）

（平成30年7月20日時点）

上段：旧事業計画

下段：新事業計画

所管部 事業名 地区名	事業概要	事業費（百万円）			事業期間			再評価		変更理由及び増減額の内訳	変更事業の発生と対応経過	備考
		総事業費	増減額	うち道費 負担額	事業 着手	建設 着手	完了 予定	実施 年	実施 予定			
都市計画 街路事業 費 (社会資本 整備総合 交付金) 3・3・304 南大通	道路工、橋梁工、函渠工、擁壁 工、用地補償費、測量設計費	6,735		2,694	H21	H23	H29			<ul style="list-style-type: none"> ・H27年4月の工事説明会において、工事による沿道家屋等への振動・騒音対策を求められたため、函渠及び擁壁工の変更が必要となった。(418百万円増) ・上記に併せて、振動・騒音調査の追加が必要となった。(100百万円増) 	H27年4月：函渠・擁壁工の見直し開始 振動・騒音調査の追加 検討 H28年3月：函渠・擁壁工の構造決定 振動・騒音調査の内容 決定	
	道路工、橋梁工、函渠工、擁壁 工、用地補償費、測量設計費	7,954	1,219	3,182	H21	H23	H31	H26	H31	<ul style="list-style-type: none"> ・H27年6月の地質調査において、逆丁型擁壁区間に埋設されている既設雨水函渠の基礎地盤が当初想定より軟弱であることが判明したことから、雨水函渠への上載荷重軽減のため、擁壁背面の埋戻材の変更が必要となった。(500百万円) ・H28年8月の台風豪雨により、当初計画の架設ヤードが浸食されたため、橋梁架設計画の変更が必要となった。(125百万円) ・平成28年10月の現地調査により、架設ヤードの地耐力不足が判明したため、重機足場工の追加が必要となった。(76百万円増) 	H27年6月：埋戻材の見直し開始 H30年3月：埋戻材の決定 H29年4月：橋梁架設計画の見直し開始 重機足場工の見直し H29年6月：橋梁架設の変更計画決定 重機足場工の決定	
都市計画 街路事業 費 (社会資本 整備総合 交付金) 3・3・20 永山東光 線	道路工、橋梁工、函渠工、擁壁 工、用地補償費、測量設計費	4,980		1,992	H27	H27	H33			<ul style="list-style-type: none"> ・H27年8月の事業説明会において、跨線橋施工時の現道交通確保を求められたことから、仮道工が必要となった。(200百万円増) ・H27年11月の地下水調査において、周辺地域で井戸水利用者が多数いることが判明したことから、施工による地下水への影響を回避するため、擁壁工の見直し及び仮設工が必要となった。(913百万円増) 	H27年8月：施工計画の見直し開始 H28年3月：施工計画の見直し完了 H29年10月：施工計画の見直し開始 H30年3月：施工計画の見直し完了	
	道路工、橋梁工、函渠工、擁壁 工、用地補償費、測量設計費	8,120	3,140	3,248	H27	H27	H35		H32	<ul style="list-style-type: none"> ・上記に併せて、工事による影響の有無を調査するため、地下水モニタリングが必要となった。(255百万円) ・H27年8月の事業説明会において、階段の冬期凍結対策を求められたことから、屋根（シェルター）の追加が必要になった。(100百万円増) ・H27年11月～H29年5月の用地補償物件調査の結果、移転工法や補償内容の変更が必要となった。(1,672百万円) 	H26年11月：地下水モニタリング内容の検討開始 H30年3月：地下水モニタリング内容決定 H27年8月：階段構造の検討開始 H28年3月：階段構造の変更内容決定 H27年11月：用地物件調査開始 H30年3月：用地物件補償内容の決定	

事業費に10億円以上の増減が生じた地区（既再評価実施地区を除く）

（細目様式1）

（平成30年度公共事業再評価実施細目に基づく報告）

（平成30年7月20日時点）

上段：旧事業計画

下段：新事業計画

所管部 事業名 地区名	事業概要	事業費（百万円）			事業期間			再評価		変更理由及び増減額の内訳	変更事業の発生と対応経過	備考
		総事業費	増減額	うち道費 負担額	事業 着手	建設 着手	完了 予定	実施 年	実施 予定			
建設部 道路改良 事業費 （社会資 本整備総 合交付金） 洞爺公園 洞爺線 滝之町伊 達線	道路改良工L=5.8km トンネル工L=0.5km 橋梁工(N=4)	5,490		2,196	H22	H22	H31			<p>【洞爺公園洞爺線】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国から道路トンネルの耐震対策について設計の考え方が示され、トンネル支保工が変更。<u>（190百万円増）</u> 追加で実施した重金属含有試験の結果、重金属含有の土量が増加し、処理工法も変更。<u>（770百万円増）</u> <p>【滝之町伊達線】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法面の土壌試験の結果、植生工法を変更。<u>（155百万円増）</u> 掘削地盤の岩石試験の結果、掘削工法を変更。<u>（270百万円増）</u> 橋梁詳細設計や地質調査の結果、橋梁基礎工などを変更。<u>（200百万円増）</u> 	<p>【洞爺公園洞爺線】</p> <ul style="list-style-type: none"> H29年3月：道路トンネルの耐震対策に関する留意点が通知 H29年5月：耐震補強工事実施 H29年9月：追加調査により当初想定範囲外で重金属含有土を確認 <p>【滝之町伊達線】</p> <ul style="list-style-type: none"> H28年8月：土壌試験実施 H28年9月：植生工の工法決定（植生基材吹きつけ工） H29年2月：岩掘削を開始 H29年2月：岩石試験により硬岩を確認 H28年6月：橋梁詳細設計 H29年3月：基礎工を杭基礎工に選定 	
	道路改良工L=5.8km トンネル工L=0.5km 橋梁工(N=4)	7,315	1,825	3,006	H22	H22	H34	H27	H32	<ul style="list-style-type: none"> 土砂搬出先を協議した結果、搬出先を変更。<u>（160百万円増）</u> 埋蔵文化財の所在調査、試掘調査の結果、発掘調査を追加。<u>（80百万円）</u> 	<ul style="list-style-type: none"> H29年7月：掘削土砂の搬出先協議 H29年8月：搬出先が決定 H28年5月：埋蔵文化財の所在調査、試掘調査を開始 H28年6月：発掘調査の追加実施が判明 H29年8月：発掘調査開始 	